

カーボン ニュートラルは 浪江 から

エネチャレ2035

浪江町 地球温暖化対策総合計画

なみえエネルギーチャレンジ2035

ガイド版 ~事業者編~



ま え が き ・

浪江町の理念の紹介

町ではカーボンニュートラルと復興まちづくりを推進するため「浪江町地球温暖化対策総合計画～なみえエネルギーチャレンジ2035～」を策定しました。

「自ら勝ち取るカーボンニュートラル」を合言葉に、

- 環境への負荷の少ない持続的発展が可能な社会の構築
- 人と自然が共生できる地球にやさしいまち浪江の実現

を目指します。

浪江町をはじめとする福島県浜通りの多くの自治体は、復興の道半ば。経済活動もこれから震災前の勢いを目指していくところであり、現時点ですでに「カーボンニュートラルを達成した状態」になっている状況です。今後、多くの事業者の皆様が浪江町へ進出いただき、経済活動が活発になる中でも早期にカーボンニュートラルの達成がなされるように、取り組みを進めていく所存です。

自ら勝ち取る
カーボンニュートラル



浪江町の温室効果ガス 排出量の抑制目標

本町の短期目標とカーボンニュートラルの最終目標は以下のとおりです。2030年度の目標を達成するには、町内のエネルギー需要の10%を再生可能エネルギーで賄ったうえ、駅前再開発エリアや公共施設でRE100、棚塩RE100産業団地で半分以上が再生可能エネルギーで賄われている必要があります。

2030年度
までに

本町から排出される温室効果ガス
40千t-CO₂に抑制します。

カーボンニュートラルに向けた達成率
50%を目指します。

※町内で使う全エネルギーの10%が再生可能エネルギーで賄われている状態
(駅周辺の新しいまちのエリアはすべてが再生可能エネルギー)



2035年度
までに

カーボンニュートラルの達成率
100%を目指します。

情報発信

- 1 再生可能エネルギー導入促進のための情報発信**
 - 太陽光、陸上風力、バイオマス、中小水力などの発電事業促進のための情報発信
 - 帰還困難区域への再生可能エネルギー導入に向けた情報発信
- 2 カーボンニュートラル関連施策推進のための補助金等の情報発信**
 - 再生可能エネルギー導入と省エネルギー対策の促進を目的としたコスト負担軽減に寄与する補助金情報、税制優遇措置等の情報発信と普及啓発

技術支援

- 3 地域内のエネルギーマネジメントへの加速化**
 - 地域エネルギー会社によるエネルギー地産地消と地産外消の推進
 - 町内のエネルギーマネジメント(最適化)の実施
- 4 次世代再生可能エネルギー技術の加速化支援**
 - 波力発電や潮力発電などの次世代の再生可能エネルギー技術の加速化に向けた支援

条例整備

- 5 地域内のエネルギー利用や調達に関する条例等の整備**
 - 再生可能エネルギーの発電事業をする場合の町への届出制度等の仕組み整備
 - 正確なエネルギー利用状況を把握するための各種実績データの届け出制度等の仕組みに関する整備
 - 生活環境や景観配慮と再生可能エネルギーの調和にむけたルール作りの検討
- 6 浪江町ゼロカーボンシティに向けた条例等の整備(促進区域の設定)**
 - 産業団地や駅周辺整備等の新規開発に関するカーボン・ニュートラル条例の検討
 - 再生可能エネルギー促進区域の設定、耕作放棄地の取扱い緩和措置など

連携

- 7 他地域とのエネルギーに関する連携**
 - 浜通り地域や都市部の自治体、海外の地域、都市とのエネルギーに関する連携の推進
- 8 福島国際研究教育機構とのエネルギーに関する連携**
 - 町内への立地が決定した国際機関とのエネルギーや水素に関する連携の模索
- 9 農林水産分野との連携を通じた炭素固定・貯留や吸収源対策の推進**
 - 農地への炭素貯留、森林吸収、ブルーカーボン等の再生可能エネルギー以外の対策を拡大

教育

- 10 未来を担う子どもたちへの脱炭素・エネルギー教育の実施**
 - なみえ創成小・中学校の生徒たちが脱炭素・エネルギーを学ぶ機会を創出
- 11 浪江町民向けの脱炭素・エネルギーに係る学びの機会の創出**
 - 「サロン」や「セミナー」の開催のほか、情報プラットフォームの活用により、気軽に脱炭素やエネルギーに関する情報へアクセスできる環境の整備

A 新規産業団地のRE100化と既存産業団地(製造業・建設業等)の省エネ推進



- A-1 棚塩地区におけるRE100産業団地の創設・運用
- A-2 高効率設備機器の導入・更新等によるエネルギー効率の向上

B 再エネを活用した農林水産業の発展



- B-1 復興牧場・農作物残渣等のバイオガス発電の導入、バイオマスレジン等の製造
- B-2 営農型ソーラーシェアの検討
- B-3 太陽光発電等を利用した陸上養殖手法の検討
- B-4 水素利用等の新たな船舶燃料技術の取込み

C 建物ZEB(Zero Energy Building)化の推進



- C-1 新築建物および既築建物のZEB化推進
- C-2 役場庁舎の他、公共施設のZEB化

D 水素製造・運用の推進と需要設備の整備



- D-1 FH2Rを中心とする再エネ由来の水素製造と運用
- D-2 柱上パイプライン事業の具体化
- D-3 水素を活用した熱電併給システムの導入
- D-4 業務用、家庭用水素燃料電池の普及



E オンサイト・オフサイトPPA事業の普及促進



- E-1 工場や事業所、家庭のオンサイトPPA事業(自家消費型)の推進と個別分散型電源によるレジリエンスの強化
- E-2 工場や事業所と、町内遠隔地における再生可能エネルギー発電との連動



F 浪江駅周辺エリアのカーボンニュートラル化



- F-1 駅周辺整備でのZEBやZEHの推進
- F-2 新たなカーボン・ニュートラル街区の創設
- F-3 道の駅や役場庁舎との連動



G 家庭の省エネ改修および再エネ導入の促進



- G-1 新築住宅のZEH化推進
- G-2 水素燃料電池の設置推進
- G-3 既存住宅の太陽光・蓄電池設備の導入、断熱改修や高効率機器の導入等の推進

H 水素ステーション・EVステーションの整備



- H-1 グリーンモビリティの普及と運用に向けた燃料充填場所の整備

産業部門 業務部門 家庭部門 運輸部門



浪江町から 事業者の皆様への お願い

志の高い皆様に、私たち浪江町とともに進めていただきたいことを書かせていただきました。町も伴走をしていきますので、ご協力をお願いします。



年間のエネルギー利用状況を把握する仕組みへの協力

皆様の事業活動における エネルギー利用情報の共有



町内の事業者様が集まる会議体やプラットフォームへの参加・情報共有



再生可能エネルギーや水素を町内で製造又は利用状況を把握する仕組みへの協力

再生可能エネルギー導入や省エネルギーを自ら進める意欲



カーボンニュートラルやRE100への 主体的なチャレンジ



(仮称)地域エネルギー会社*からの電力供給契約への前向きなご検討

*令和5年3月現在、設立に向けて準備中

カーボンニュートラルに資する技術開発・事業実施などに取り組む

浪江町から 事業者のみなさんへの コミットメント

浪江町への事業進出・起業・開業をお考えの皆様に、浪江で事業を行う意義やメリットをご提示します。



対外的な浪江町の「ゼロカーボンブランド」の確立と発信

カーボンニュートラルやRE100が当たり前の地域社会を浪江に実現し、「浪江に立地している」こと自体が価値となるようなブランディングを行っていきます。



プラットフォームの構築

浪江にはカーボンニュートラルに積極的で挑戦者マインドを持った事業者様がたくさん集まっています。そうした事業者様同士や浪江町と事業者様がつながり、また新しい展開ができるような場や機会を創出します。



安価なグリーン水素やRE100電源の調達

設立予定の地域エネルギー会社を中心に、他地域ではまだまだ調達の難しいグリーン水素やRE100電源を調達し、可能な限り安価な供給を実現。職場のカーボンニュートラル達成に貢献します。



カーボンニュートラルに資する 挑戦への後押し

浪江町では事業者様のカーボンニュートラルへの挑戦を後押しします。事業者様のお困りごとやチャレンジへの伴走や財源情報の共有、事業環境の提供などもできる限り協力します。

浪江で事業をされているみなさんの声

浪江町の考えに賛同し町内への事業進出をされた事業者様に、お話を伺いました。



株式会社伊達重機

代表取締役 前司 昭博氏

弊社は、浪江町で昭和60年にクレーンリース業で創業しました。CO₂を大量に排出する業種でしたが、SDGsに取り組むために、「なみえ水素タウン構想」に賛同し、浪江水素ステーションを令和4年に開業しました。地産地消モデルとして、FH2Rのグリーン水素を一部供給頂いて、FCVユーザーへ水素を提供しております。福島県最東端の町から、エネルギー最先端の町へ！皆様と共に持続可能な浪江町を作ってまいります！



株式会社スマートアグリ・リレーションズ (バイオマスレジンホールディングスグループ)

取締役 中谷内 美昭氏

地球温暖化と石油系プラスチックには関連性があり、バイオマスレジングループでは北産業団地において食用に適さないお米を原料としたバイオマスプラスチック「ライスレジン」の生産工場が稼働致しました。

浪江町の圃場において原料となるお米造りと農地炭素貯留等、二酸化炭素削減への取組を実施中で、50年後の浪江町が自立循環型の街となるようお手伝いをさせて頂き、将来の子供たちに良い環境を残せるよう恩送りをして参ります。



會澤高圧コンクリート株式会社

取締役副社長 會澤 大志氏

北海道の企業であるAIZAWAは、浪江町のポテンシャルの高さに魅力を感じ、研究開発生産拠点の建設を決めました。浪江町の水素を中心としたゼロカーボンシティへの意気込みやF-REIの設立など、間違いなく盛り上がり続ける町になります。我々のRDMセンターは皆様と協力して事業を行う、開かれた巨大実験施設です。これらは町の中の連携なくしては成功しません。ぜひ一緒に浪江町で新しい姿の事業をしていきましょう。